

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

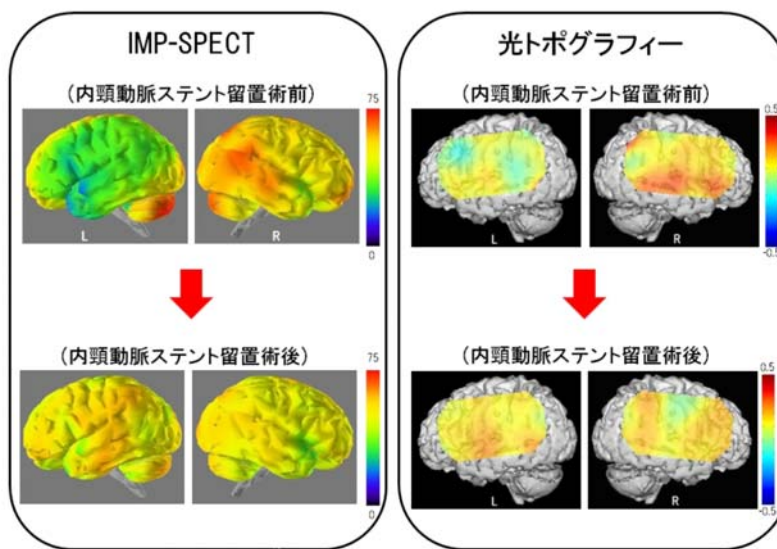
Vol.34, July, 2010

社会人大学院生を終えて

自治医科大学 脳神経外科 海老原 彰

私は4年前、自治医科大学大学院に社会人大学院制度ができた年に社会人大学院生の第1期生として入学いたしました。この4年間、小山市民病院という自治医科大学から距離的にも近い一般病院に勤務しつつ大学院生として研究も同時に行いました。臨床と研究の両立ということで、大変なこともありました。無事に学位を取得できたことを大変嬉しく思っています。

この社会人大学院生という制度は、臨床も十分に行えるし、更に大学院生として専門的な研究もできるということで、とても欲張りな制度であると同時に、臨床や研究をそれぞれ単独で行うよりも何倍も大変であると言えます。特に大変な点は、忙しい臨床の中で如何にして研究時間を確保するか、モチベーションを維持するかと言う点だと思います。これらの解決には研究テーマの選択や研究環境の整備が重要で、遠隔地で一人でも研究を行えるテーマを選び、困ったときにはメールなどで御指導いただける状況が必要だと思います。



私の研究テーマは、「酸素吸入を用いた光トポグラフィーによる脳虚血診断法の開発」というものでした。近赤外線を用いて脳組織でのヘモグロビン濃度変化を計測できる光トポグラフィーという装置を使い、酸素をパルス状に吸入投与することで血中の酸素化ヘモグロビン濃度を変化させて、正常部位と虚血部位の違いを検出するというものです。勤務先では週に一日の研究日をもらえていたので、その日に大学へ行って脳虚血患者や健常例の光トポグラフィー測定を行い、その測定データを持ち帰って自宅や勤務中の空き時間にパソコンを使ってデータの解

析を行っておりました。またその結果に関しては、2ヶ月に一度の頻度で定期的にデータ解析の専門家達を交えた検討会を行い、測定や解析のための知識や技術の向上に努めました。この研究には、コンピュータや数学の知識が要求され、これまでの脳神経外科の医学的な学問とは異なる点が多く、始めは大変戸惑いましたが、途中からは楽しくなってゆき、臨床の合間の良い気分転換にすらなっていたと思います。そのおかげで4年間挫折することなく研究を続けることができました。また、この研究テーマで幸運だったことは、データを解析するためのコンピュータプログラムの作成などに研究の重点があり、細胞の培養や動物実験などのような長時間連続した準備や制約を受ける研究とは異なり、細切れの時間を掻き集めて上手く利用しながら行えるため、臨床の僅かな空き時間を有効に活用できたことであります。ニューロイメージングの世界は医学だけでなく工学分野など様々な他分野との結びつきが多く、この研究を通して他分野の多くの方とお知り合いになり交流を持ったことが一番の宝だと思っています。

最後になりましたが、今回研究の御指導をいただいた脳神経外科の渡辺教授ならびに、毎年社会人大学院生の進捗状況をチェックしサポートいただいた地域医療オープンラボの先生方にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>